

看護学生に OSCE を実施することの意義
－4年次の学生アンケート調査から－

山海 千保子 浅川 和美 小室 佳文 秋野恵理 堀内 ふき
(茨城県立医療大学 保健医療学部 看護学科)

【研究目的】看護学科において履修する全臨地実習を終了した4年生に対し、看護学科全教員の参加による、客観的臨床能力試験（Objective Structured Clinical Examination、以下 OSCE）を実施した。学生の反応をもとに、看護の実践能力修得に対する OSCE の効果を評価した。

【研究方法】OSCE 終了後の学生 51 名に対して、無記名、記述式アンケートの調査を行った。調査内容は、臨地実習における OSCE 実施項目の経験の有無、自己の技術力に対する自信等であった。

【倫理的配慮】調査前に、アンケートの協力は任意であること、アンケート結果の分析は個人を特定しないこと等を書面で説明し、アンケートの回答にて同意を得たものとした。

【結果】OSCE 実施にあたり「技術修得に効果的であったこと」は、「自己学習」「学生間での相互学習や練習」が 90%前後であった。「OSCE 時の教員からのフィードバック」が役だったと答えた学生は 76.5%であった。「OSCE を行うことは今後の臨地での実践に役立つと思うか」の質問に対しては、86.3%の学生が「役立つ」と答え、その理由として、「臨床で出会う場面を適切に再現しているため、今自分にどの技術が身についているか確認ができる」「繰り返し練習したことは多少なりとも身につけているので、今後実践において有用である」など、役に立つと記述していた。

また、OSCE 場面において技能を発揮できましたか」の質問に対し、31.4%が「発揮できた」、39.2%が「発揮できなかった」と回答した。その理由として、前者では、25%が「緊張したが練習したことを思い出した」と記述し、後者では 70%が「緊張したためできなかった」と記述していた。

【考察】実践能力修得に自己学習や練習が効果的であったと多くの学生が述べていた。OSCE のために練習環境を整えているが、日常的に練習環境を整えることも検討する必要があると思われた。また、OSCE は卒業前の技術の再確認に有効であり、学生間でも臨床実習で学んできた技術を含め様々な知識を共有できる機会になったと考える。さらに、今後の臨床に向けて多くの学生が「役立つ」と評価しており、OSCE を行うことは学生の実践能力修得に役立つことがわかり、今後も継続してゆく必要があると思われた。ただし、OSCE における技能発揮の自己評価については否定的に評価する学生もいる。多くの学生が「緊張したこと」を理由にあげているが、今回「どのような緊張」だったのか確認していない。「緊張」の内容を検討し、OSCE の実践方法について検討する必要があると思われた。

【まとめ】OSCE は実践能力をレベルアップさせる良い機会であり、今後

も継続してゆく必要がある。